



大阪市 都市計画局長 角田 悟史氏

第1部 基調講演

「2025年大阪・関西万博を契機とした大阪のまちづくり」 都市再生は第2ステージが進行中

第64回 ビル経営サミット in 関西 紙上再現

「大阪」駅前の「グランフロント大阪」で開催された「ビル経営サミット in 関西」。当日はあいにくの梅雨空であったが、160名を超える来場者が参加し会場は満席となった。不動産市況が好調な大阪・関西圏において、昨今のインバウンド増加や今般開催が決定した万博が、更なる追い風となるのか。関心の高さがうかがえる。

「都市格」が今後の目標 整備期待されるIR

大阪の都市圏はニューヨークやロンドンといった世界の大都市と比較しても遜色ない人口や経済規模を抱えており、大阪市はその中心に位置します。一方、こうした都市を支える都市基盤については、高速道路および一般道路の総延長や、鉄道駅の密度といった都市インフラは東京に負けない充実ぶりとなっており、市の都市計画行政が着実に進めてきた結果ではないかと考えています。医薬品産業が集積していること



当日は多くの参加者が集まる

も大阪の大きな特徴として、大企業の本社機能は多くは大阪に集中しています。特に減少傾向にあり、大阪は全国シェアの10%程度を占めており、今後市場の拡大が期待されています。近年は外国人観光客の増加が日本の経済を大きく支えている面があり、大阪経済にも大きな効果をもたらしている

の流出で「なんばスカイオ」は長期にわたって企業の転出超過の状態が続いており、開業率よりも廃業率の割合が高いという現状です。また、大企業の本社機能は大阪を展望し、北陸新幹線が福井・敦賀まで延伸開業、「うめきた」2期が着実に進



南海電気鉄道 執行役員 グレーターなんば創造室長 和田 真治氏

安全安心で 清潔な街をつくる

大阪商工会議所が中心になって「グレーターなんば」という形で、難波、天王寺、新今宮、上本町から泉南、泉州までを含んで行ったりしていますが、当社では「グレーターなんば」

第2部 特別講演

「南海電鉄のなんばスカイオ開業をトリガーとしたグレーターなんばのまちづくり」 道頓堀から新今宮まで、エリア一帯を世界に誇れる街に

の目標は約2800万発着拠点となる可能性があり、駅周辺のまちづくりは非常に重要であると考えています。初代のなんば駅の開業を皮切りにして、1932年に「南海ビル」、その後順に「南海会館」、「なんばCIAY」と開発してきました。そのように

ななか関空ができたことで、13、30がオフィス、1、9が商業・サービス、公共空間の活用というところ、質の向上もあると考えています。難波にこれまでもなかった都市機能をもたらした。1990年に「サウスタワー」ホテルオフィスの収容人口を本では沖繩と大阪が選ばれていて、写真にはきたりと考えています。ハード大学の



